

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2022(令和4)年 11月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

秋の永代経法要の

ご案内

十一月十六日(水)

【野波瀬の方】
昼一時半

夜七時半

【自由参拝】

十一月十七日(木)

【野波瀬以外の方】
昼一時半

講師 福岡 筑前

信覚寺住職

渡邊 如心 師



※今回も、地区別に参拝日を分けました。

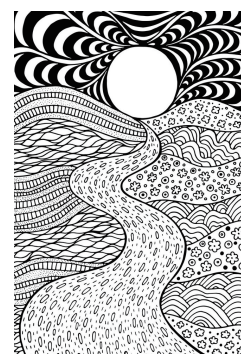
ご都合により、違う日にお参りされても構いません。



マスク着用をお忘れなく！

長門市における感染状況次第で、急遽中止となる場合もあります。

永代経法要とは



住職が子どもの頃は、山を走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなることによって、道がなくなってしまうからです。先に歩く人が踏みしめる歩みによって、道はできるのです。私たちのところにまで、お念仏の教えが伝わってきたのも、先だつてこの道を歩まれたご先祖があるから、志を納めお寺を護ってこられた先輩方がいるからなのです。そして次に歩む者がないれば、道は途絶えてしまいます。永代経法要とは、永代にわたり伝えられたこのみ教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうという尊い営みなのです。

お寺にご連絡下さい。日程を調整した上で、お参りにうかがいます。

お取越しの季節です

「お取越し」とは、真宗寺院において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、ご命日よりも取越して(早めて)各家々で勤めるといふ、真宗門徒にとって大切な伝統行事です。「でも、どうして親戚でもない人の法事を勤めなくてはならないの?」と思われる方もあるかもしれません。実はこの行事には、大切な心が込められているのです。



お取越しをお勤めしましょう
キャンペーン

ただ念仏して

来年は、親鸞聖人のご誕生から八百五十年目にあたります。また再来年は、親鸞聖人が主著『教行信証』を著されてから八百年目となります(この年が、浄土真宗が開かれた「立教開宗」の年とされています)。その為、来年の三月から五月にかけて、京都の本願寺では「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」がお勤めされることになりました。コロナ禍の心配はありますが、三隅地区では団体参拝を計画しています。詳細は改めてご案内しますので、ぜひご参加ください。

さて、突然ですが質問です。皆さんは、努力して良い成績をとった人が入れる学校と、名前だけ書けば入れる学校と、どちらが良い学校だと思いますか? 大抵の人は、努力して入る学校が良いと思われ、もう一つ質問です。厳しい修行をして悟りを得る仏道と、ただ念仏を称えれば救われる仏道と、どちらが素晴らしい道だと思いますか? やはり、「長年厳しい修行をしてきたお坊さんの方が、信用できる」と思うのが一般的な感覚でしょうし、そちらの方が素晴らしい仏道だと思われるのではないのでしょうか。自分がその道を歩めるかどうかは、別にして。

親鸞聖人の当時も、そんな感覚が当たり前でした。「ただ念仏」で救われる仏道は、「惨めで劣った者のための、最もレベルの低い行」だと考えられていたのです。優秀な者には、優秀な教えがある。「ただ念仏」で救われる教えなど、愚かで憐れな人々のためのものだというのが一般的な認識でした。ところが親鸞聖人は、「ただ念仏して、弥陀にたすけられまらすべし」(「歎異抄」と、念仏を称え阿弥陀様に救われていく愚者の仏道を歩まれました。浄土真宗のみ教えは、修行して立派になる仏道ではないのです。こう聞くと、惨めで劣等感にまみれた仏道のように感じられるかもしれませんが、しかし、この「ただ念仏」の仏道が八百年以上の長い歴史を通して、多くの人々の心に響き、私たちのところにまで届けられている。これは一体、どういふことなのでしょうか。



←



福岡市の東区に、私立の「立花高校」という学校があります。この学校は、「入試で、名前さえ書けば入学できる」ことで有名です。そう聞くと、レベルの低い劣った学校なのだろうと、思われるかもしれません。実際に、そう思われた時代もありました。ところが今や、文科省の役人や他の学校の先生たちが視察に来て、驚き感動して帰っていくという大注目の学校なのです。

実は、この学校へ通う生徒のおよそ八割が、小中学校で不登校を経験してきました。障害のある子もいます。でも、みんなとても生き生きしています。この学校の設立は一九五七年。「一人の子を粗末にする時教育はその光を失う」を理念として、当時の教育に違和感を抱いた公立高校の先生たちが、退職金を持ち寄って作った学校です。誰でも入れる学校とバカにされ、一九七〇年代には全校生徒が三人になったこともありました。

それでも「一人の子を大切にする」という理念の下で学校運営を存続し、今では定員を超える五百二十人の生徒が在籍しているのです。

現在校長をされている齋藤真人先生は、講演でこのように言われています。

立花高校に赴任した当初、ビックリしたことが多かった。例えば、濃化粧をして登校



する女子生徒がいる。もちろん学校のルールでは、化粧はNG。だけど先生たちは「あれは自分を守るために、自己防衛で化粧してくるけんね」。化粧とつたらあの子は来れなくなるけん、どうしたもんかね」と話される。そんな言葉を聞いて「ああ、この学校の先生は、ルールよりも子どものことを真剣に考えているんだ」と感動した。みんな、悩みを抱えている。誰もが、それぞれの立場で頑張っている。この学校の先生たちは、そんな事情に向き合い、「ルールだから」と切り捨てることをしない。一人ひとりに寄り添う教育とは、こういうことだと思った。

そして実際に、名前さえ書けば入れる学校。なぜなら、優劣をつけることなんてできないから。来たいと思って、頑張って試験を受けてくれる。それだけで嬉しいから。

入試前、お母さんから「入試に私服で行ってもいいでしょうか」と電話がかかってくることもあった。ずっと中学校に行けなかったから、久しぶりに制服を着ると身体が成長して入らない。もちろん答えは、「私服でどうぞ」。外出自体が数カ月ぶりという子だっている中で、入試を受けようとしている。それが親子にとつて、どんなに大きな一歩か。

入試の日、学校前の坂道で、緊張のあまり吐いてしまう子もいた。吐くほどの緊張と、その子は闘っている。すると、通りがかった別の学校の子が背中をさすって「大丈夫だよ」と励ましていた。その光景を見て、胸が熱くなって泣けて、泣けて。そんな子たちを、とてもじゃないが落とせ

ない。

入試当日の朝、「どうしても子どもが家を出ない」という保護者からの電話があれば、以前は職員が自宅まで車で迎えに行っていた。でも、それはやめた。無理して連れてくるのは違うと思ったから。今は、「本人が



来ようと思うまで待ちましょう。私たちは来年でもいつまでも待つていますから」と伝えてる。保護者だって本人だって、つらい。頑張っている。だから入試の日はいつも「頼むから学校に来て、そして名前を書いて」と願っている。そうすれば、あとは一緒にやっで行こう。それまで、待つている……。

立花高校は、名前さえ書けば入れる学校です。誰でも入れます。しかし、そこには先生方の尊い願いがあるのです。「名前さえ書いてくれたらいい。そしたら、一緒に歩んでいこう。来れなかったら、いつまでも待つているから」、そう言ってくれる素敵な先生たちがいる学校なのです。それぞれに苦しんでいる子どもたちと、その家族と、共に歩んでいきたい。そんな先生方の思いと取り組みの中で、次第に子どもたちも変わっていくのです。私たちは、良い成績をとった優秀な人間が通う学校が素晴らしいくて、名前だけ書けば入れる学校はダメだと、当たり前のように思っています。確かに努力して、競争に勝つことは大変なことです。努力を否定するつも

市販品、市販品、市販品、市販品、市販品、市販品、市販品、市販品、市販品、市販品

りもありません。しかし努力を積み重ねていくほどに、それを握りしめ、他人をバカにする人間になるのであれば、それはとても寂しいことだと思います。

何より結果だけで、その人の人生までも決めつけるのは安易です。努力で勝ち取った人は、「結果が出ない人は努力が足りない」と決めつけ、同じ努力を人に求めがちですが、それぞれの事情や環境は違うのです。実は誰もが、それぞれの立場で頑張っている。にも関わらず、安易な考えで決めつけているうちは、立花高校の取り組みの素晴らしいは理解できるはずもなく、同時に「ただ念仏を称えれば救われる」という仏道も、惨めで愚かな者の道だと思えないでしょう。

立花高校の理念は、「二人の子を粗末にする時教育はその光を失う」というものでした。そして、阿弥陀様の願い（本願）は、「十方衆生、即ちすべての生きとし生けるいのちを、必ず敬われ、尊ばれる仏とさせる」というもの。どちらも「誰も切り捨てない」という願いです。考えてみれば、優秀な者だけを選び、あとは切り捨てるというのは、ある意味簡単なことなのです。しかし、一人ひとりを大切にしていくこと、誰も決して見捨てないこと、これは本当に大変です。こちらの方が、遥かに厳しく、険しい道でしょう。だからこそ、尊いのです。



私たちは、「努力し、結果を出す人は素晴らしい」「劣った者は、努力が足りないダメなヤツらだ」と思っではいませんか。しかし、自分の大切な人が「ダメなヤツ」と切り捨てられそうになったら、自分がそう言われる立場になってしまったらどうでしょうか。立花高校に通う子どもたちも、そのご家族も、そんな言葉に日々苦しめられ、追い詰められてきたのです。人間である限り、誰しも弱さや愚かさを持っています。人生は、順調な時ばかりではありません。苦難や挫折、自分の弱さや限界を突き付けられることもあります。いくら頑張っても結果が出ない時もあるし、頑張ることさえできない時もある。何より私たちは、必ず老い、病み、死ななくてはならないという厳粛な事実を抱えているのです。

愚かさをバカにし、弱い存在を切り捨てようとする考えは、自分が、そして大切に思う人が弱い立場に立たされる時、今度は自分たちに襲いかかってくる。それまでの思いが、自分たちを惨めにさせ、苦しみを生み出していく。これは想像以上に過酷なことです。そんな時に「あなたを決して切り捨てはしない。一緒に歩んでいこう。いつまでも待っているから」とこの私を大切に思ってくたさる願いとほたらきに出遇ったなら、人生は大きく変わります。

親鸞聖人は、誰もが持っている弱さや愚かさに毅然と向き合う中で、阿弥陀様のご本願と出遇われました。「私たちには、どんな者をも切り捨てないという阿弥陀様の尊い願いがかけられている。南無阿弥陀仏のお念仏

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

に込められて、その願いとほたらきがこの私に、そしてあなたにも届けられてる。さあ、お念仏称えましょう。お念仏を称える時、私たちはその心に包まれているのですよ」と、教えてくださったのです。この願いの尊さは、自分の弱さや愚かさに向き合うことがなければ、わかりません。この願いがどれほど凄いものなのかは、人間の事実から目を背け、安易に人生を決めつけている人には理解できるはずもないのです。

「ただ念仏」の道が、長い歴史を通して多くの人々の心に響き、私たちのところにまで届けられているのは、親鸞聖人の歩みに導かれ、阿弥陀様の尊い願いに包まれていることに感動した人々の歴史があったからだと言えるでしょう。親鸞聖人がお生まれになられて、来年は八百五十年目を迎えます。長い歴史を経て、私のところに届けられた尊い願いとほたらきを、お念仏を称えながら、しっかりといただきたいものです。■



お念珠 修理いたします。

気軽に、お寺へお持ちください。



月々の言葉

Monthly Words



悲しみと
痛みを
忘れた世界ほど
悲しい世界はない

極楽寺掲示伝道



10月の言葉

腰痛で苦しんでいます。朝、布団から起き上がるのがツライのです。腰痛対策のマットレスを敷いて寝ているのですが、なかなか自分の身体に合うものに出会えません。高価なものを買ってみようかとも思うのですが、もしそれが合わなかったらと考えると、これもまた勇気が出ないのです。

ただ、身体に合うマットレスがあれば、すべて問題が解決するのかもしれない、そうでもないようです。そもそも痛みは身体の不調からくるもの。お世話になっている整形外科の先生からも、「身体のバランスが崩れていることで、痛みが出るのです。姿勢の矯正や体操が大切ですよ」と、常々指摘されています。

しかし考えてみれば、痛みがあるからこそ身体の不調がわかるのですね。痛みとは、身体が傷ついたり、弱っていることを知らせ



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

る身体からのメッセージ。痛みがなかったら、取り返しがつかなくなるまでほったらかしているに違いありません。身体を大切にするためにも、痛みの大切さを思い知らされます。

それは、心においても同じことなのでしょう。心に感じる痛みや悲しみは、自分が傷つけられた時や、大切な存在を失った時に起こるもの。大切に思うからこそ、傷ついたり失うことに痛みや悲しみを感じるので。大切だと思っていなかったら、そんな感情は起こりません。ならば、心に痛みを感じることがない生き方とは、大切なことが大切に思えていない。かけがえのない存在がない。そして自分自身さえも、本当に大切にできていない。そんな心貧しく寂しい人生だと言えるのではないのでしょうか。

もう二十年以上も前のことです。『ニュース23』という番組の生放送で行われた討論会で、一人の青年から「なぜ人を殺してはいけないのか分からない」という質問が出ました。彼は、「自分は死刑になりたくないからという理由しか思い当たらない」と続けたそうです。この発言に、社会は大きく揺れ動きました。その場にいたジャーナリストの筑紫哲也さんや詩人の灰谷健次郎さん、作家の柳美里さんたちが、誰も答えることができなかったからです。当り前のように「いのちを大切に」と語ってきた大人たちが、何も言えなかった。そんな大人に対

して、「不甲斐ない」「結局、きれいごとや理想論を語っていただけなのか」と嘲笑する声も多くありました。

しかし今になって振り返ると、その場にいた大人たちは答えられなかったのではなく、この質問が出てきたことに絶句したのではないかと、私は思うのです。

彼は、人を殺してはいけない理由に「自分は死刑になりたくないから」としか思えない。殺される側の痛みや、遺族の悲しみを想像することができていない。同時に、自分の大切な人を失うことの悲しみも。

彼には、失って悲しむような存在はないのか。だから、大切な人を失う痛みや悲しみを想像することができないのか。それは、お金ですべて解決できると思ってきた考えが、お金には代えられないかけがえのなさを見失わせてしまったからなのか。人の心を麻痺させる社会に、

今私たちは生きているのだ…。この事実を突きつけられた衝撃に、大人たちは絶句したのでしよう。

そもそも、この質問に対して理屈で説明することはできません。なぜなら、悲しみは感じるものであり、痛みは体験するものだからです。頭だけで考えていても、わかるはずはないのです。

逆に、人を殺してもいいという理屈は、



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

いくらでも成り立ちます。戦争になれば、「勝つためには仕方がない」「殺さない」と、殺される」という理屈で正当化され、敵を多く殺した人が英雄と讃えられます。モチロン、極限状況に置かれれば、そうせざるを得ない場合だってあるでしょう。しかし、そこに痛みや悲しみを抱えるのか。それとも理屈で麻痺させるのか。そこが大きな分かれ目です。

『涅槃経』という經典に、「無慚愧は名づけて人とせず」「慚愧あるがゆえに、父母・兄弟・姉妹あることを説く」という言葉があります。

親鸞聖人は著書『教行信証』の重要な部分に、この言葉を引用されています。「慚愧」とは、天に恥じ人に恥じるということですから、自らの生き方を振り返り、痛みを感じ、悲しむことです。でも、おかしな表現だと思いませんか。私たちは元から人に生まれていきますし、父母・

兄弟・姉妹は、慚愧しようがしまいがあつたものです。ところが、「慚愧あるがゆえに」と言われている。これは一体どういうことなのでしょう。

お釈迦様在世の頃、インドにマガダという国がありました。その国王の息子アジャセは、父を殺して王位に就きます。ところがその後、アジャセ王は「罪なき父を、悪友にそそのかされて殺してしまった。

あんなに優しく私を育ててくれたのに…」と苦しみ始めるのです。王を慰めようと、取り巻きの大臣たちは、当時の思想家たちを紹介し、それぞれの理屈を語られます。



「気に入るな。悩んでも仕方がない」

「今までも、そんなことをした人は
たくさんいた」

「殺された側にも、殺される理由が

ある」等々…。

しかし、どんな理屈を並べられても、アジャセ王の罪の意識は消え
ませんでした。それは、冷静になって振り返った時に、父と共に過ご
した日々が、懐かしい思い出が、思い起こされたからなのでしょう。
その体験と感情は、理屈では麻痺させることなどできなかったのです。

そんなアジャセ王を救うきっかけとなったのが、「慚愧」でした。ギ
バという大臣が、「善いかな、善いかな。あなたは罪を犯しましたが、
そのことを悔い、慚愧の思いを起しておられる。お釈迦さまは、慚愧
こそが苦悩の衆生を救う白法（清らかな法）なのだ、常に説かれて
います」と苦悩する姿を褒め、「無慚愧は名づけて人とせず」「慚愧あ
るがゆえに、父母・兄弟・姉妹あることを説く」と語るのです。

慚愧なき者は心が麻痺し、人である自分を見失っているのだ。同時
に父王を殺そうとしていた時に、あなたは、父をも見失っていた。顔
を突き合わせていたにもかかわらず、父という存在を感じていなかった。
た。しかし今、あなたには慚愧の心が起こっている。それはあなたが、
父王を感じているからだ。あなたは今、確かに父と出会っているの



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

だと。この言葉に心を動かされたアジャセ王は、お釈迦様のもとを訪
れ救われていきます。『涅槃経』のこの場面を、親鸞聖人はとても大切
にしておられます。

自分のあり方に悲しみと痛みを持つ。それが慚愧です。都合の悪い
部分から目を逸らし、理屈で心を麻痺させるのではなく、真摯に自分
の人生と向き合う姿でもあります。そして、この慚愧によってこそ、
救いのはたらきが開かれ、道を求める心が起こされていくのだと教え
られるのです。

悲しみと痛みを忘れた世界は、周りの大切な人を見失い、自分を見
失った世界です。何を悲しく思うのかは、裏返して言えば、何を大切
に思っているかということなのですから。

「なぜ人を殺していけないのか」という質問が出てから、二十年以上
の時間が流れました。社会の状況は、ますます深刻化しているよう
な気がします。私たちは、何に悲しみや痛みを感じているのでしょうか。
理屈をつけては、大切なことから目を逸らし、心を麻痺させてはいないだろうか。深
く振り返らねばなりません。 ■





11月の言葉

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。奢れる人も久からず、ただ春の夜の夢のごとし」

平家一族の栄華と没落を描いた古典『平家物語』の冒頭の言葉です（ちようど、今年の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』と重なる時代の物語ですね）。有名な言葉ですし、ご存知の方も多いのではないですか。地位も名誉も、権力もお金も、すべてを持っていた人々も、必ず落ちぶれる時がくる。「この世のすべてのものは移り変わり、永遠に変わらないものなどない」という仏教の教え、「諸行無常」を表すこの言葉。現代の私たちにも通じる人間の事実



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

を示しているのですが、私たちは遙か昔のお話にしてはいないでしょうか。

批評家で随筆家の若松英輔さんは、東京工業大学の教授でもあります。若松さんが大学の教員になり、学生たちと対話をする中で強く感じたのは、「自分が人を助ける側には立っているのですが、自分が人に助けられる立場になるという発想がまったくない」ということでした。しかも、それが「無意識レベルまで浸透している」とも感じたそうです。

冷静に考えてみれば、誰もが困る時ってありますよね。いつも助ける側、強い立場にいるということはありません。まさに「諸行無常」です。世の中は常に移り変わり、いつまでも同じ状況が続くことはない。栄えるものも、いずれは滅びる。それは、わざわざ『平家物語』を持ち出さなくても、誰もが経験的に学んできたことです。「明日は我が身」という言葉もありますし、私たちは助けたり、助けられたりして生きています。いつも助ける側にはありません。

ところが近頃の学生は、助けられる側になるという発想がない。これは学生たちが、「自己責任」を強いる社会の求めに応じた結果だと、若松さんは指摘されます。（『弱さの力』若松英輔）

「自己責任」という言葉が定着して久しいですが、これは「自分が

今困っているのは、自分の責任なのだから、他人に助けを求めるべきではない」、つまり自業自得だという考え方です。

この「自業自得」も、仏教の言葉ですね。原因があればそれ相応の結果があるという、仏教の基本的な考え方「因果応報」から来た言葉で、

「自分がしたことの報いは、自分が引きさうけなくてはならない」ということです。しかし、

ここには注意が必要です。仏教では、そこに縁というものを考えますから、一直線に

「今あなたの置かれた状況は、全部あなたのせいだ」と短絡的に考えるものではありません。

せん。仏教の因果論は、もっと奥深いものです。

第一、今の自分の結果が、自分がしたことの報いなのかどうかは、一つ一つ厳密に調査し検証しないとわかりません。もしかすると、違う原因があるのかもしれない。周囲からの圧力や、環境によるものもあるのかもしれませんが、それを表面だけで、すべて「お前の責任だ」と安易に決めつけるのは因果論の悪用であり、その人に責任を押しつけているだけでしよう。

何より「自己責任」を語る時、助ける側の立場が上で、助けられる側が下。迷惑をかけられている方の立場が上で、かけている方が下ということになってはいないでしょうか。そうになると、「助けて欲しい」



若松英輔

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

と言うことで、自分が弱い立場になってしまふ。同時に、自分の惨めさを受け入れることになる。そして、弱みを見せたくないから、責任もとりたくない。責任をとる立場になると、何かあったら叩かれ、弱い立場になりかねないから。結局、自己責任と言いながら誰も責任をとらず、それどころか責任を押し付け合っている。これが、「自己責任」を叫ぶことでできあがった「無責任」な社会です。

それは、「あすは我が身かもしれない」「助けられる側になるかもしれない」という、この世の無常という事実から目を背けている姿です。いや、その発想自体を無意識に拒否している。そんな感覚が、若松さんの「無意識レベルにまで浸透している」という指摘に込められているのではないのでしょうか。

ここまでくると、既にいただいているもの、恵みや慈しみ、恩からも、目を背けざるをえなくなります。素直に感謝することさえも、できなくなってしまう。

ところで、皆さんは「お互いさま」という言葉をご存知でしょうか。「誰でも知っているよ！バカにするな！」と怒られた方、ごめんなさい。でも近頃は、日常的にもほとんど耳にすることがないもので…。テレビドラマでも、責任を押し付け合う姿は目にしても、「お互いさま」と責任を取り合うシーンを見ることはなくなりました。何より私自身

が使っていないかったのではと猛反省。あえて意識して使ってみると、相手がホツとするのが伝わってきたのです。貸し借りではなく、温もりのある関係が生まれたようにも感じられ、これは大切な言葉だと改めて気づかされました。

「お互いさま」を辞書で調べると、「両方とも同じ立場や状態に置かれていること」とあります。助ける方が上とか、助けられる方が下とか、そんなことではなく、同じ立場だからこそ「互い」に「お」と「さま」をつけて尊重し合う。これが「お互いさま」です。

「あすは我が身」という「諸行無常」の事実の前では、皆同じ立場なのです。この事実を見失い、私たちは「自己責任」という言葉を使うことで、責任を押し付け合う無責任な社会を作り上げてしまったのではないのでしょうか。

私たちは、「助けて欲しい」と言っているのです。いや、助けられ、恵みをいただきながら生かされているのが私たちです。自分の人生に本当の責任をとるということは、その事実を受けとめることからしか始まらないのです。

そして何より、助けられて生きる姿は、周りの人の「助けられてもいいんだ」という生き方を生み出します。私はそれを、阿弥陀様に



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。

お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。

When I was younger, so much younger than today,
昔、僕が今よりずっと若かった頃は
I never needed anybody's help in any way
何をするにも誰かに助けを求めたことなんてなかったのに
But now these days are gone,
でも、それももう昔のこと、
I'm not so self assured,
今の僕は自信を失いかけていて
Now I find I've changed my mind and opened up the doors,
気がついたら気持ちが変わり、心の扉を開いていたんだ
(『HELP』ビートルズ)

助けられ、救われた親鸞聖人の生き方に学びました。「助けてと言わせないでください」と生きてはいけません。そのことを忘れた時に、感謝も温もりも失われていくのでしょうか。



極楽寺の世話人を8年6ヶ月間勤められた藤永拓之さんが、ご往生されました。長い間お世話いただき、本当にありがとうございました。

物でお布施

mono de OFUSE

プルトップも、
集めています！



書き損じはがき・未使用切手・CD・DVD・ゲームソフト
未使用テレホンカードゲーム機器・商品券やビール券 など。

未使用タオルや バザー一品となるようなものも、
受け付けています！

本堂正面から入って右手奥に、回収箱を用意しています。



極楽寺ホームページ

極楽寺.comで検索
又はQRコードから



住職の つぶやき

Jyuusyoku's
Tweet

□ 毎年春に、見事な花を咲かせて私たちの目
を楽しませてくれた極楽寺境内の八重桜。今
年は花をつけなかったのが心配してしま
したが、どうやら枯れていたようです。泣く泣く
切ることになり、綿野良介さんに手伝って



きれいに咲き誇っていた八重桜

いただきました。ただ根っこは大丈夫なようで、ヒコバエ（根本から生える

わかめ若芽）が生えています。再び花が咲くまで、大切に育てていかねばなりません。でもそれって、一体いつになるのやら。

ああ、先は長い…。□ さて、今年の広島カープはなかなか波に乗ることができず、結局5位に終わりました。今年もほぼ全試合最後まで観ましたが、グチりながら、ボヤきながら終わってしまいました。力のある選手も揃い、若



涙の伐採式 協力・綿野良介さん

手も育っているのですが、良い時期が長続きせず、ここ一番でも勝ちきれない。落ちるばかりの順位からは目をそらし、たまに訪れる勝ちゲームをささやかに喜ぼうと決めたのですが、なかなかそうもいきません。悶々とした日々でした。とは言っても、来年四月まで、カープの試合が観れないのも、これまたもっとツライのです…。何だかんだ言っても、カープの試合があることこそが幸せなのだとして再確認しています。結果に振り回され、グチりボヤき、本当の幸せを見失う。まさに、人生と同じですね。新井新監督も決まりました。来シーズンを、本当に待ち遠しく思っています。ああ、先は長い…。(住職)

次回法座の予定

コロナ禍の状況を見ながら、どのような形で勤めるかを考えたいと思います。次号でお知らせします。

今月号はスペースの関係で、『極楽寺ニュース』も『お寺のギョーカイヨーゴ』もお休みです。いつも以上に字ばかりの紙面になってしまいました。すみません…。